

人と大地を紡ぐ 最高のパートナーへ



60th
Kanreki
Anniversary

Tanaka Geological
Corporation

60th Kanreki Anniversary

Contents 目次

Greetings ご挨拶

Company Overview 会社の概要

60 Years of History 還暦のあゆみ

New Policy 新たな方針

Special Report 特別企画

創立60周年「還暦」のご挨拶

拝啓 皆様におかれましては、日頃より格別のご高配を賜り、心より御礼申し上げます。

株式会社田中地質コンサルタントは、令和7年5月、創立60周年の節目である「還暦」を迎えることとなりました。この節目の年を迎えることができたのは、ひとえにお客様、協力企業の皆様、そして支えてくださる社員とそこご家族の存在あつてのことです。ここに心より感謝申し上げます。

弊社は昭和40年(1965)に「田中地質調査所」として誕生し、昭和45年(1970)に法人設立して以来、地質の調査・解析および設計を通じて社会基盤の安全と地域の未来を支える仕事に携わってまいりました。その歩みの中で私たちが常に大切にしてきたのは、「目に見えないものを、技術と信頼で支える」という誇りです。

地質調査という仕事は、地中に眠る真実を見極め、構造物の安全を確保し、自然災害への備えや減災対策の基盤を築く、極めて重要な専門業務です。私たちの仕事はこれまで、あまり目立つことのない分野でありながらも、社会の根幹を静かに、そして確かに支え続けてきました。

今、私たちは新たな時代の入口に立っています。地球規模で自然環境が変化し、災害リスクが高まる中、地質調査の果たすべき役割はますます大きく、そして多様になってきています。地域の安心・安全を守ることにとどまらず、文化財の保護、環境保全、教育や地域づくりにまでそのフィールドは広がっています。私たちは、川や森、土や岩石と向き合いながら、私たちの専門である「地学のチカラ」をフル活用し、人と自然のよりよい関係を未来へとつないでいきたいと考えています。

その想いを、私たちは「還暦」を機に、新たに掲げたスローガンに込めました。

人と大地を紡ぐ 最高のパートナーへ

この言葉には、「地質調査業」という枠を越えて、人の暮らしと地球の営みを紡ぐ存在でありたいという願いを込めました。自然と向き合い、学び、支え合いながら、50年後も元気で楽しい地元が続いている。その未来に私たちの仕事が確かな礎となることを信じて―。

これからも「地学のチカラ」を活かし、社員一人ひとりが地域にとってかけがえのない存在となれるよう、挑戦を続けてまいります。

今後ともご支援、ご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

敬具

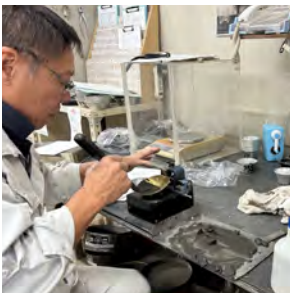
令和7年5月吉日
株式会社田中地質コンサルタント
代表取締役 田中 謙次

KANREKI ANNIVERSARY

会社の概要

Working landscape

私たちの会社は、昭和の木造校舎を思わせる、どこか懐かしい建物です。
木の温もりに包まれたこの社屋を、私たちは「国高の学校」と名づけました。
この場所は、地域に根ざしながら、学びや交流が生まれる、私たちらしい拠点です。



私たちの仕事場は、森や川、里山など、自然に抱かれた場所です。
四季のうつろいに包まれながら、大地の声に耳を傾けています。

広がる大空から地形を見渡し、足元の土を手に取り、科学の目で丁寧に読み解く。
そうして私たちは、自然の中に潜むリスクを見つけ、未来の安心につなげていきます。

ときに厳しい自然環境の中でも、仲間と助け合って、安全で安心される設計や提案へとつなぐ。
見えないものを見える形にし、人々の暮らしを静かに支えるのが私たちの役割です。

科学技術とチームワーク、そして「わくわくする心」を忘れずに。
今日も誰かのために、大地と向き合う。

これが私たちの仕事です。

創立	昭和40年5月1日に田中地質調査所 創立
設立	昭和45年12月10日に株式会社田中地質調査所 法人設立 昭和52年12月6日に株式会社田中地質コンサルタント 社名変更
ISO規格	ISO9001:2015
資本金	10,000,000円
社員	役員5名、従業員20名、パート3名(2025.5.1現在)
事業登録	地質調査業、測量業、建設コンサルタント 土壌汚染対策法に基づく指定調査機関
業務内容	地盤調査、地質解析、自然災害設計、土質試験、チリ空間情報処理 文化財科学、遺跡探査、土と石の強化保存、研究開発、機器販売
関連団体	福井地質調査業協会 会長(H24.4～) 一般社団法人関西地質調査業協会 副理事長(R05.6～) 協同組合土質屋北陸 副理事長(R04.6～) 福井県農業土木技術研究会(H27.6～) 福井経済同友会 常任幹事(H27.5～)

◆主な資格者情報

技術士	総合技術監理部門1名、建設部門4名、応用理学部門2名 農業部門1名
技術士補	建設部門3名・応用理学部門1名
RCCM	土質及び基礎2名・河川砂防及び海岸・海洋2名・農業土木2名
測量士	2名
測量士補	5名
一級土木施工管理技士	6名
二級土木施工管理技士	1名
地質調査技士	8名
地質情報管理士	3名
地盤品質判定士	1名
土壌汚染対策技術管理者	1名
二級ビオトープ計画管理士	1名
地すべり防止工事士	1名
甲種火薬類取扱保安責任者	2名
乙種第4類危険物取扱者	4名
2級モノレール技士	1名
コンクリート技士	1名
ボーリング技術者「匠」認定	1名

「人と自然のいい関係」を育んできた60年 ダイジェスト

1965

田中地質調査所創立



創立当初

1970

法人化となり、株式会社田中地質調査所となる

1977

コンサルタント業を開始し
株式会社田中地質コンサルタントへ社名変更

1978

3階建ての自社ビルを建設
屋上から「たけふ花火」が一望できた



自社ビル

60th
Kanreki
Anniversary



恒例の書き初め(妙行寺)

2018

レーザードローンを導入
上空からの地形調査がパワーアップ

1992

中国地質鉱山局と合資し
上海田中地質公司を設立



海外合弁会社が立ち上がる

1994

物理探査機器の販売開始
センサース&ソフトウェア社(カナダ)
と代理店契約を結ぶ

1996

土と石の強化保存剤TOTの開発
マヤ文明のチャルチュアバ遺跡をはじめ、台湾中部大震災の断層や阪神淡路大
地震の野島断層などの保存処理を行う



田中の技術が海外へ

2002

堆積土の年代測定、地震予測に必要
な古地磁気データを得る、定方
位サンプラーを開発しサンプリ
ングを行う

1988

遺跡探査の機器と技術を収集するた
め、イギリスへ渡り開発会社や博士
と出会う
物理探査が開始する

1990

空中写真測量に取り組む
バルーンを飛ばした測量は当時の先
端技術であった
今で言う「ドローン」の始まり



バルーンで空中から撮影

1991

新社屋「国高の学校」を新築



当時、企業では珍しい木造社屋

2009

富永ファシリテーターのもと、
チームビルディングを実践。チー
ム力をアップし技術サービスカ
に活かす



全員で会社の未来を考えた

2011

創業45年で新社長へ交代
新しい体制でリスタート

60 years of detailed history

西 暦	和 暦	月 日	主 な 出 来 事
1965年	昭和40年	05月01日	田中地質調査所 創立
1970年	昭和45年	12月10日	株式会社田中地質調査所 法人設立
1977年	昭和52年	12月06日	株式会社田中地質コンサルタントへ社名変更
1978年	昭和53年		自社ビル(鉄筋コンクリート3階造)建設
1988年	昭和63年	06月	物理探査技術の開発のため渡英し技術収集する
1990年	平成2年		バルーンによる空中写真測量を開始
1991年	平成3年	04月	本社が芝原2丁目より国高2丁目へ移転 木造社屋「国高の学校」を建設 JT学術調査隊に参加しバルーン測量でグアテマラのマヤ遺跡の探査を実施
1992年	平成4年		中国地質鉱山局と合資し上海田中地質公司(STG)を創立
1993年	平成5年		日本のボンベイと言われる群馬県子持村で地下レーダ探査を実施
1994年	平成6年		地下レーダ探査機(Sensors&Software Inc.)の代理店契約を締結し販売開始
1996年	平成8年		福井高専とメソアメリカ学研究所との共同研究で土と石の強化保存剤TOTを開発 電気探査器DZD-10 ポケット型帯磁率計WSLを開発販売
1997年	平成9年	01月	環境文化研究所を創立 自然環境と生活文化を共に考える企業文化活動の開始
		09月	清水町笹谷地区に東海大学と福井高専との共同で地震観測所を設立
2000年	平成12年	11月	ISO9001を認証取得
2001年	平成13年		TOTが国土交通省の新技術情報提供システム(NATIS)に登録
2002年	平成14年		定方位サンプラーを開発し、兵庫県人と自然の博物館と共同研究を開始
2009年	平成21年	08月	子ども向けイベント「おもしろフェスタ」にTOTなどで初出展 専門家のファシリテーターによるチームビルディングでチーム力アップに挑戦
2011年	平成23年	01月	創業者である田中保土社長が会長へ 次男の田中謙次専務が社長へ交代
		06月	地域の自然災害に関する講演依頼が始まる
2015年	平成27年	04月	現代ドローン(UAV)技術の確立 快適なフィールドワークのために国産アウトドアブランド「モンベル」などをユニフォームとして導入
2016年	平成28年	07月	環境文化研究所が一般社団法人格となり独立
2018年	平成30年		UAVにレーザー機器を搭載し実用化へ
2019年	令和1年	08月	高校で地学の特別授業の依頼が始まる
2020年	令和2年	04月	取締役として梅田幸成事業部長および瀬戸宏和技术推進部長が新任
		01月	SDGsを宣言
2021年	令和3年	11月	快適なフィールドワークに向けてオリジナルスポーツ手ぬぐいを製作
2022年	令和4年	06月	SDGsの観点から株式会社良品計画のアパレルを事務ユニフォームとして導入
		09月	多くの時間を費やすワークデスクを一新 無垢材で作業環境を向上
2024年	令和6年	04月	部署改変 梅田幸成コンサルティング事業部、瀬戸宏和技术営業部長、長岡達哉デジタル事業部長(新任)の新体制 課長を廃止しチーフエンジニアへ
		04月	ボードゲームから始まる朝礼を開始
2025年	令和7年	05月	創立60周年 還暦を迎える 現在の社員28名(パート含む)
		06月	創立60周年記念イベント「ガーデンパーティー」を開催

since2025

私たちのパーパス経営
一更なる社員の幸福と地元貢献のためにー

スローガン Slogan

人と大地を紡ぐ 最高のパートナーへ

「大地の声」を誰よりも理解できるコンサルタントとして、私たちが地学のチカラで「人」と「大地」を“紡ぐ”ことで社会を、生活を、防災をサポートする。
そんな企業であり続ける意思をこのスローガンに込めました。

パーパス Purpose

こたえは「大地」が知っている
私たちが「地学のチカラ」で地元を支えます

私たちの仕事の原点は「大地」です。
「地学のチカラ」でその「大地」からこたえを導き出し、困りごとを解決し、地元の未来を支える。
それが私たちの最も根幹で、これまでも、これからも、大切にすることです。

私たちの価値観 Values

1 居場所
本音で語って認め合い、個性を活かし合います

一人ひとりの個性を活かし、その可能性を実現する舞台を私たちでつくり上げます。
小さなことでも話しやすい、相談しやすいこの「居場所」では、ひとりでは困難な課題も、個人の力に頼りきるのではなく、お互いに本音で語り合い、強みを活かしあう「チーム」としての行動を大切にします。

2 GEO ENGINEERs
チャレンジと責任を心に刻み、技術者集団として解決します

一つとして同じではない自然の課題に立ち向かうときは、常に探求心と向上心を持ち、「地学のチカラ」で困難に向き合います。
大地の声を届ける技術者集団として、責任と誇りを常に持ちながら「チャレンジしたい」「期待を超えて感動を」と思う姿勢を大切にします。

3 ありがとう
感謝の気持ちを言葉で伝え、「ご縁」と「感動」でファンの輪を広げます

ささやかな「ありがとう」「すでい！」を声に出し、社員同士で認め合い、共有します。
人と大地を紡ぐ最高のパートナーとして、田中地質コンサルタントのファンの輪が広がるように、顧客感動を創造していきます。

パーパス

私たちの価値観

福井平野の地下に広がる“水の世界”

— 地形・地質から地下水まで、地域の未来を支える自然の仕組み —

1. 福井平野の地形の特徴とその成り立ち

福井平野は、地形的な特徴から大きく二つに分けられます。一つは「鯖武盆地(さばたけぼんち)」、もう一つは「福井平野」です。これは、長い地史の中で地殻変動と河川堆積が繰り返された結果、福井の地形が多様で豊かな表情を持つようになったことを物語っています。

鯖武盆地は図1のように、南から北へと流れる日野川が山間部から平地へと出て広がる場所に発達した扇状地を基盤とし、その先に段丘が帯状に広がっています。こ

の盆地は、丹生山地(西)と越前中央山地(東)という標高300mを超える山々に囲まれており、まさに自然がつくった“器”のような構造をしています。村国山や三里山、経ヶ岳などの山々が盆地内に点在し、それらの間を縫うように日野川や吉野瀬川が流れ込み、長い年月をかけて平野を形成してきました。

一方、福井平野では、縄文時代に海面が上昇する「縄文海進」が起り、内陸に浅い湾(古九頭竜湾)が広がったと考えられています。その影響が地形に色濃く残ってお

り、特に標高5m以下の低地は三角州として発達した範囲であり、背後には氾濫原や扇状地が接しています。これらの分布は、標高を色分けした地図から明確に読み取ることができます。

また、この平野部には、九頭竜川、足羽川、竹田川、日野川といった複数の河川が流れ込み、長い年月にわたり土砂を運び込むことで肥沃な沖積平野を形成してきました。この地形区分の境界は、経ヶ岳と文殊山を結ぶ線にあると推定され、地形と地質が融合する境目でもあります。

2. 地質構造と「水を生む地盤」

福井平野を取り巻く山々や盆地の地質は、比較的新しい地質時代である新第三紀中新世に形成された火山岩や火砕岩で構成されています。図2の地質図を参照すると、西側の丹生山地、東側の越前中央山地を中心に、これらの岩石が広く分布していることがわかります。

この地域にはいくつかの顕著な断層も存在し、鯖武盆地の南方には東西に延びる吉野瀬川断層、福井平野東縁には南北方向に伸びる福井地震断層や福井東側地震断層が走っています。これらの断層活動は、地下構造の複雑性を増すと同時に、地下水の流れにも影響を与えていると考えられます。

また、この地域には安山岩という中性火山岩が広く分布していますが、この岩石はマグネシウムやカルシウムの含有量が少なく、これが地域の地下水が「軟水(硬度40~70mg/L)」として知られる一因となっています。

3. 地層構造と“水がめ”としての地下

福井平野の地下には、複数の地層が層をなして広がっており、いわば「地下の年輪」のような構造を形成しています。中でも主に更新世に堆積した砂礫層としてDg1層、Dg2層、D~T層が、また粘性土層としてDc1層、Dc2層が確認されています。

これらの層は、おおむね北もしくは北西

方向に向かって緩やかに傾斜しており、全体として連続性の高い構造となっています。ただし、地下深部の基盤岩には起伏が

あり、それによって一部で地層が切れたり、変位している箇所も見られます。

特にDg2層は、厚さも広がりもある非常に重要な被圧帯水層であり、深井戸による取水においては主要な水源となっています。地下の地層構造と地下水の流動は密接に関連しており、地質を理解することが水資源の保全や持続的利用に直結します(図3参照)。

低地部では、九頭竜川・足羽川・竹田川といった河川の影響を受けており、主に東から西、または南東から北西方向へ地下水が流動しています。

鯖武盆地では、日野川、吉野瀬川、浅水川を含む水系が発達し、とりわけ日野川の影響が強く、右岸と左岸で異なる流動パターンが確認されています。村国山を挟んで、東側では北上、西側では北東方向へと地下水が流れています。

福井平野と鯖武盆地の間では、地下水の流れが一部で不連続になる傾向があり、その原因には、層の透水性の差、地層の起伏や厚さの変化、また地下水路の方向転換などが複合して関係していると考えられます(図4参照)。

4. 地下水の流れとその多様なルート

福井平野の扇状地では、地下水の流れは非常に特徴的です。扇頂部で雨水や河川水が地下にしみこみ、砂礫層を通して伏流し、扇端部で湧き出すという典型的な地下水循環が見られます。

5. 深井戸と水質から見る地下水環境

福井平野では、地下水の深度と水質(硬度)に明確な関係が見られます。特にDg2層を対象とした深井戸調査から、地下水の流動方向と水質の変化傾向が明らかになっています。

Dg2層は、日野川の武生扇状地の扇頂部では標高-5~-10mの深さで現れ、北に向かって緩やかに傾斜しながら、足羽山北端で-35~-40m、福井平野中心部では-70

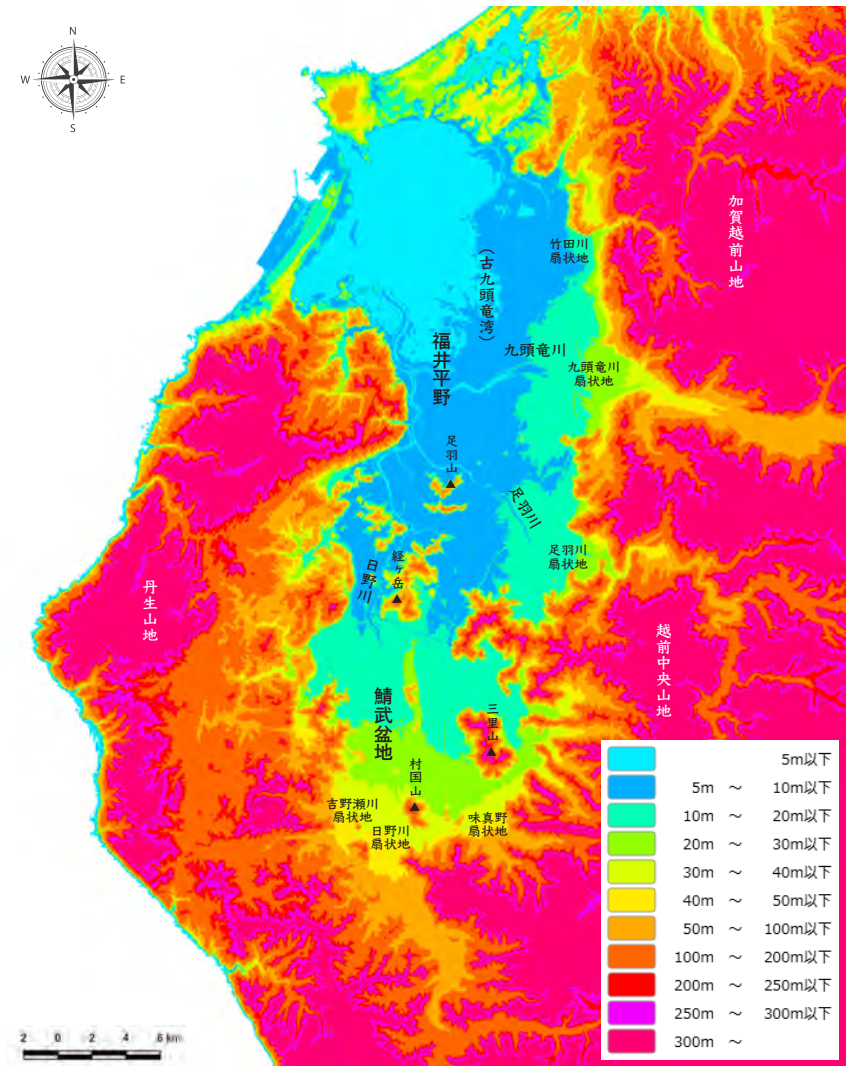


図1 鯖武盆地および福井平野の色別標高図¹⁾

標高に応じて色分けされた地形図。扇状地、三角州、段丘、低地の分布と縄文海進の影響が視覚的に示されている。

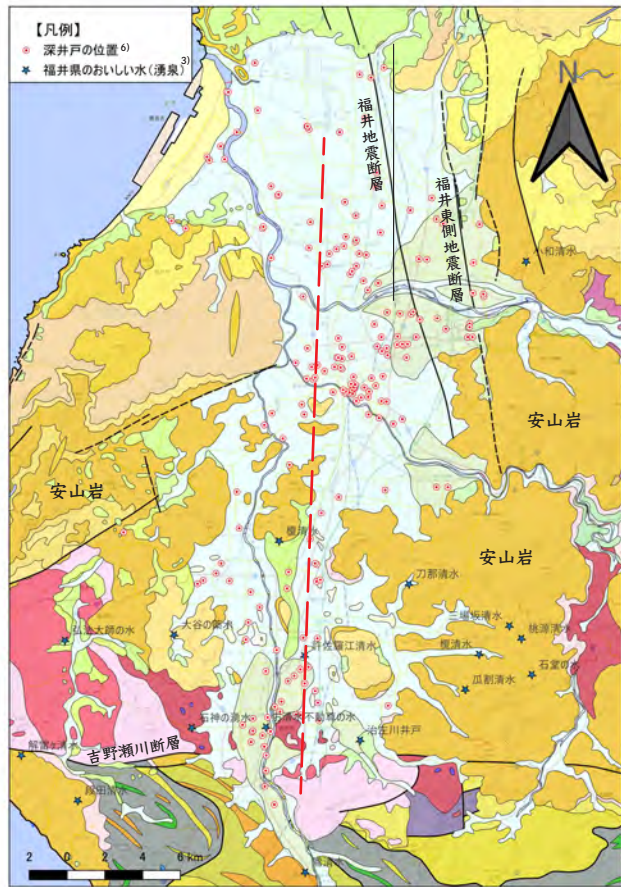


図2 鯖武盆地と福井平野の地質図²⁾

火山岩・火砕岩など地質の違いが色分けされ、主要な断層線や名水の位置、深井戸の分布なども示されている。

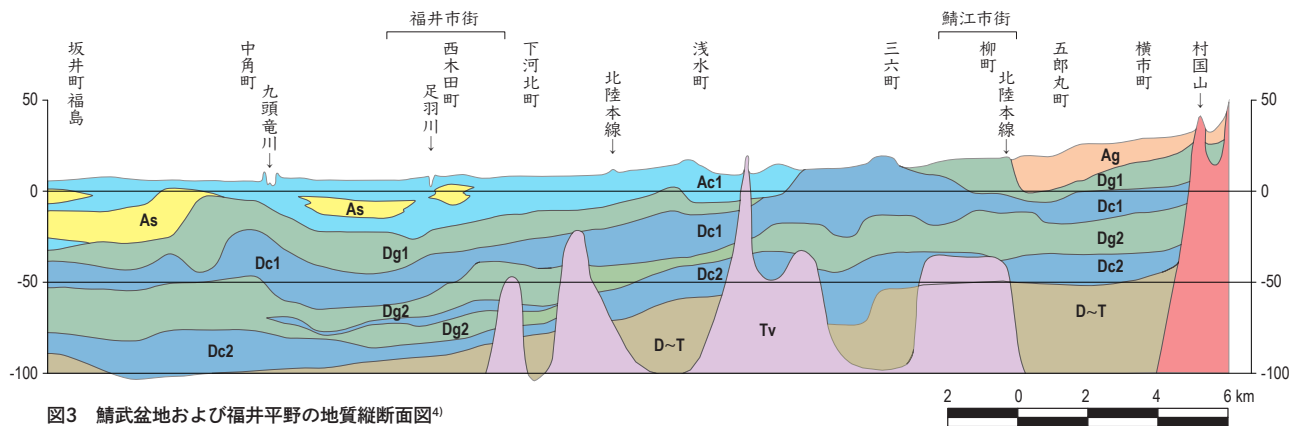


図3 鯖武盆地および福井平野の地質縦断面図⁴⁾

図2の赤破線の地質断面図。地下の地層構造が断面として描かれ、砂礫層や粘土層の層序、基盤岩の起伏、地下水の流路などが一目で理解できる。

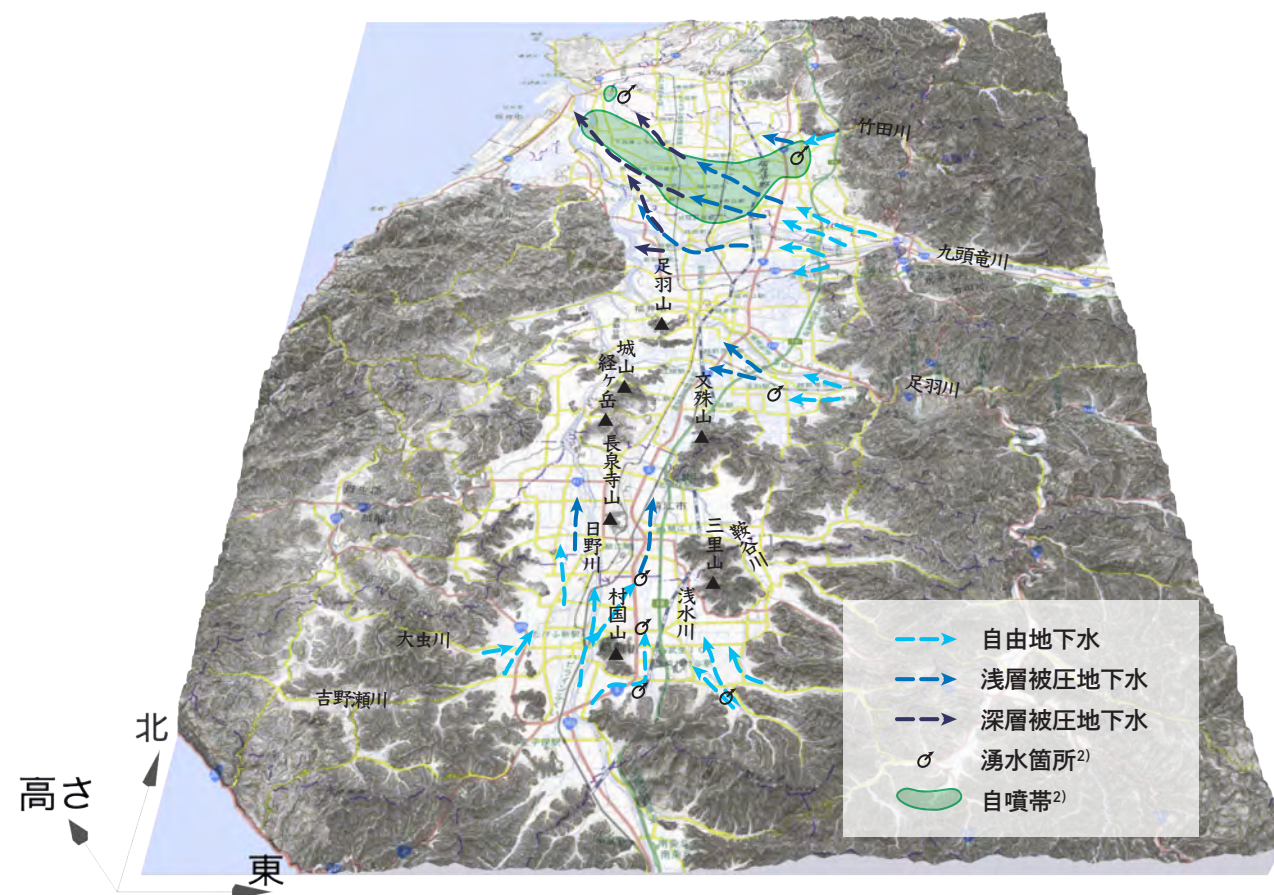


図4 鯖武盆地および福井平野の地下水の流れ図
扇状地での涵養・伏流・湧水の流れ、地域ごとの地下水系の違いを視覚的に把握できる図。7)に加筆

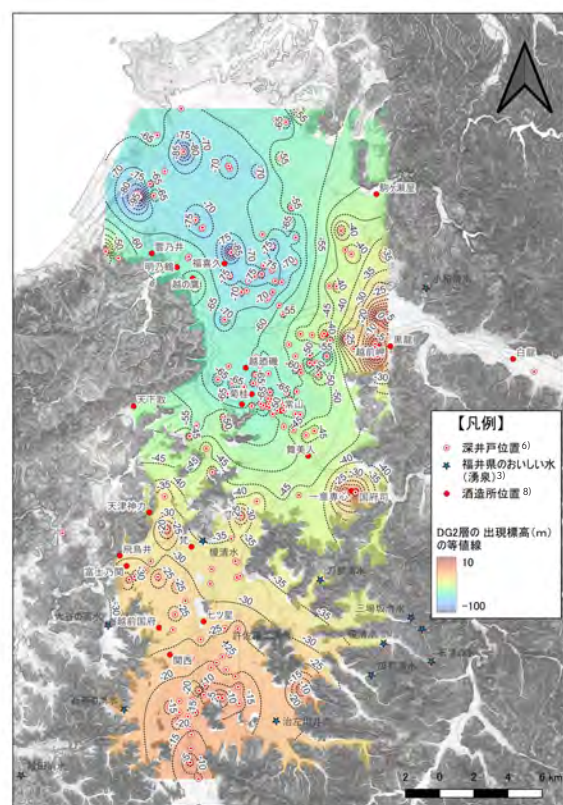


図5 砂礫層Dg2の出現標高の等値線図
Dg2層の深さ分布を視覚化し、地下水の流動傾向や井戸の掘削深度との関係を示す。7)に加筆

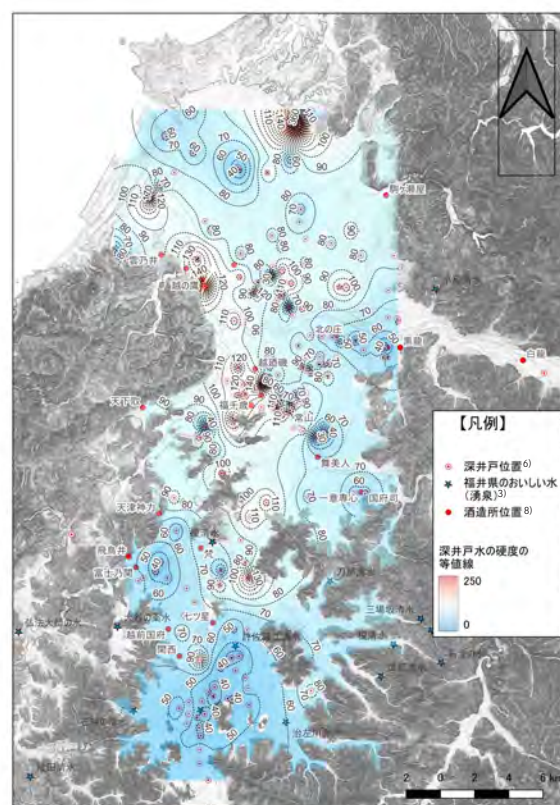


図6 深井戸水の水質(硬度)の等値線図
各地点の硬度(mg/L)を等値線で表示し、湧水・酒造所との関係や水質の変化を読み取る図。7)に加筆

～85m、最終的に九頭竜川河口付近では-80～-95mに達します(図5参照)。

この流れに沿った深井戸の水質(硬度)を調べると、扇頂部では40～50mg/Lと軟水が中心で、鯖江台地などでは特に良質な水が確認されています。そこから北上するにつれて徐々に硬度が増し、足羽山北端では70～90mg/L、さらに九頭竜川流域では100mg/Lを超える地点もあります。ただし、竹田川合流部周辺では再び50～60mg/Lの軟水ゾーンがあり、湧水の存在が示唆されています(図6参照)。

6. 湧水と暮らし、そして福井の文化

図6の湧水・酒造所の分布を見ると、鯖武盆地の谷筋や扇端部に良質な湧水が多く、市民に親しまれています。「福井県の美しい水」として名水百選にも選ばれたこれらの水は、飲用だけでなく、地域文化にも深く根ざしています。

特に酒造所では、こうした湧水や深層被圧地下水を仕込み水として活用しており、水の硬度やミネラル分が日本酒の味に大きく関わっています。水量の安定性も重要な要素であり、酒づくりに適した自然環境が福井には整っています。

7. おわりに — 地下水環境を未来へ

本稿を通じて明らかになったのは、福井平野の地形・地質と地下水が非常に密接な関係にあるということです。扇状地での地下水涵養、複雑な地質構造、断層の影響、そして良質な地下水が湧き出す“水がめ”としての地下の働き。これらは偶然ではなく、長い地質史と自然の力によって形づくられてきたものです。

私たちは、このかけがえのない地下水環境を未来の世代に引き継ぐために、まずその存在を知り、理解し、そして守る意識を持つ必要があります。

福井の水は、地層の中で静かに流れ、私たちの生活と文化を支えています。これからも、この見えない豊かさを大切にしていきたいものです。以上

◆参考文献

- 1) 国土地理院, GSIMaps, 地理院地図, 色別標高図
- 2) 20万分の1シームレス地質図, 産業技術総合研究所
- 3) ふくいのおいしい水, 福井県, <https://www.pref.fukui.lg.jp/doc/kankyou/water/nicewater.html>
- 4) 福井県の水理地質と地下水, 北陸農政局, 1977年3月
- 5) 福井県水理(地下水)地質図説明書, 福井県, 1965年9月
- 6) 地下水資料台帳データ, 国土交通省 https://nlftp.mlit.go.jp/kokjo/inspect/landclassification/water/f9_exp.html
- 7) 国土地理院, GSIMaps, 地理院地図, 傾斜量図
- 8) SAKETIMES, <https://jp.-sake-times.com/sakagura/fukui>

筆者
城戸 渉



株式会社田中地質コンサルタント
コンサルティング事業部 技師長
技術士(総合技術監理部門、建設部門、
応用理学部門)

CONGRATULATIONS 60TH ANNIVERSARY

**Environment
Culture
Research
Institute**

SINCE
1997



一般社団法人環境文化研究所

60th
Kanreki
Anniversary



2025年礼会 書き初めによる「志」を共有するところから当社の一年が始まります。

60th Kanreki Anniversary
【創立60周年 還暦記念誌】

発行日 令和7年5月1日

発行者 田中謙次

制作者 株式会社田中地質コンサルタント
福井県越前市国高2丁目324番地7

本誌に掲載の記事・写真等の無断転用を禁じます。

(非売品)